



留学生との交流で

私たちのまちは世界とつながる

北区の特徴の一つは、外国人留学生やその家族が多く住んでいること。さまざまな文化や価値観を持つ外国人との交流は、私たちのまちに新しい活力をもたらしています。区内でもいろいろな形で留学生たちとの交流が広がっているようです。



家族の一人、地域の一人として

北海道教育大学札幌校周辺では、

北海道教育大学札幌校に通う留学生が多く住む拓北・あいの里地区。このまちには、留学生を家庭に泊めて、日本の生活を体験してもらおうホームステイを受け入れている人たちもいます。

その一人、中村利勝^{なかにちかつ}さんは、十三年前からホームステイの受け入れを始めました。きっかけは、地域の行事で出会った中国人留学生が慣れない寮生活に悩んでいると聞いて、自宅に招待したこと。それ以来、延べ二十人の留学生を受け入れてきました。

中村さんは「生活様式の違いはお互いに配慮しますが、

特別扱いはせず、家族の一員として接しています」と話します。「言葉の壁を気にせず、どんな話し掛けること」と、早く親しくなるための秘けつも教えてくれました。

「自国に帰ってからも『日本のお父さん』と慕ってくれるのがうれしい」と中村さんは目を細めます。帰国した留学生の家や結婚式に招かれたこともあるとか。中村さんは海を越えた家族ができていくようです。

まちは広がる

国際交流の輪

拓北・あいの里地区では、留学生との交流を地域にもつ

と広めていこうと、交流会も開かれています。この交流会は、地元のあいの里郵便局とあいの里三条郵便局が主催するもの。地域の人による手作りの料理を一緒に食べたり、サークルのメンバーが琴や踊りを披露したりと、留学生との交流が深まる楽しい一日になっています。

「留学生や地域の人から、このような交流の場が欲しかったと喜ばれています。これをきっかけに留学生のホームステイ先が広がればいいですね」と話すのは、あいの里郵便局の雲雀圭子^{ぐさのけ}さん。現在は、雲雀さんやホームステイを受け入れている家族の人たちが中心になって、「北海道教育大学ホームステイ協会」

▶交流会では、みんなで盆踊りを楽しみました
▼留学生の申東美^{あしん}・とうじこさん(右)、呉輝^{こき}さん(中央)との会話が弾む中村さん(左)。

の設立準備を進めています。

これは、ホームステイ先の募集などを地域の人たちの手で行っていこうというものです。

雲雀さんは、「留学生による料理講習会や日本の文化を紹介する行事もやっていきたい」とこれからの抱負を語ります。留学生との地域ぐるみの交流で、拓北・あいの里のまちと世界との距離がまた近くなっているようです。

